

私を育ててくれた

静岡とダンス



日本体育大学副学長
笠井里津子(昭56卒)

はじめに私は、静岡の教育により育てられ今の自分があると思っています。

幼い頃から動く事が大好きで負けず嫌いな私が、市連合の陸上大会や水泳大会の代表となり出場させていただいた事、授業でのリズムダンスや表現運動があり、褒められた事で踊る楽しさを存分に味わいました。同じ頃モダンバレエを習っていたので、踊りを得意とし、将来は体育の先生になりたいと思っていました。このように幼い頃から運動を好むようにしてくれたのは、静岡の教育の取り組みに他なりません。加えて清水西高校の恩師原田すみ江先生との出会いも大きいです。

原田先生は、日体でソフトボール部に所属していました。当時の猛練習の痕跡として先生の膝は器具でガチガチに固められて、動くには難しい程でありました。しかし先生は、明るく力の



ある声で励まし、指導して下さい、私はその元氣な先生にあこがれを持ちました。

先生は、ダンス好きな私の為に、日体大への進学を薦めて下さり、大学のダンス研究室に連絡も入れ、入試実技の指導、大学見学、試験当日も同行し、常に私を支えて下さいました。

入学後一年一回のダンス発表会へ重いビデオカメラを持参し、記録して下さいました他、教育実習指導担当者として責任を持って、近々に静岡へ戻ると考え育てて下さいました。

先生は出身地沼津を愛し、定年前まで近郊の高校に勤めていました。しかし体調の事も考え、早期退職をした矢先に倒れられ、闘病生活を八年強いられ、二年前に亡くなられてしまいました。

今回、沼津市で同窓の方々にお話する機会は、縁を感じずにはいられませんでした。会長の松田清孝先生はじめ、同窓の皆様のご厚意と亡く

なった原田先生も沼津に呼んでくださった気がしました。頼りない私を心配し同窓の皆様にかけてもらえるよう講演しなければと天から思っ

てでしょう。

さて、私の専門とするダンスについて、大学

では後藤ツヤ先生、三宅照子先生、三宅香先生らが常に目を光らせて学生指導

は特別に厳しかったです。学生として、二歩も三歩も下がっての行動でした。一人っ子一人娘の私は、あまりにも違う世界に入り驚愕しました。

しかし、ダンス部は百二十人を越える人数で、群舞で隊型を変化させていくダンスを創作し、群表現の面白さを伝えていました。私は創作の楽しさを知り、もつと外に出てダンスを学びたくなりました。卒業後は、

アメリカの大学で一年間様々なジャンルのダンスを学ぶと共に、空手、柔道、合気道の武道も同時に、その大学で逆輸入のように学ぶチャンスを得ました。

帰国後は一年間日体大の無給研究員としてダンス部と関わり、その後は中高一貫校に四年間勤め、結婚後期に幼児教育専門学校で幼稚園教諭、保育士の養成に十七年関わり、その間に三人の子育てをしました。沢山の同窓の方の支えをいただきました。そして十二年前母校へ奉職しました。進路就職には全て同窓の方



が関わり本当に私は幸者です。

最後に、今の日体大でのダンス指導について述べます。私の所属は児童スポーツ教育学部で、小学生と就学前の幼児に對

してのダンス・表現運動を教授しています。特に身体で表現することは『幼い頃の学習が影響しますので、まず楽しい事であると認識させ、意欲を持って取り組ませたい。』としたい日常動作を大きさに歌詞を付けて歌いながらの「あるある教室」を提案しています。次の四つは、留意点

- ・ 同じ歌詞八拍で二回繰り返す
- ・ 同團二m四方の空間は使う
- ・ 決まった動き無し多様性OK
- ・ 動きは大きさにメリハリつけて

★「あるある教室」

- ① 机の下に転がった消しゴム × 2
- ② 伸ばしても伸ばしても届きません × 2
- ③ 黒板拭きましょ隅から隅へ × 2
- ④ カーテン開けましょ閉めましょ × 2
- ⑤ 開けましょ閉めましょ 1 2 3 4

以上その他のあるあるダンスを創作して楽しくチャレンジしてほしいと思います。